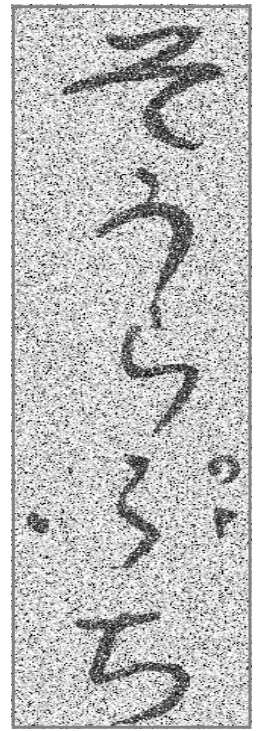


全教一斉にをいがけデー！



九月二十八、二十九、三十日と全教一斉にをいがけデーでした。空知支部では二十八日は各教会で、二十九日は各地区にて行い、三十日は支部統一会場として、北空知分教会(芦別市)に集合しにをいがけを実施しました。当日は路傍講演班二班、神名流し班、戸別訪問班に分かれ芦別市内の各所にて活動しました。当日は晴天の御守護の中、心勇んでにをいがけに励みました。路傍講演五か所、神名流し三か所、おさづけ取り次ぎ一回させていただきました。参加者は教会長十一名、よふぼく十三名、少年会員二名、計二十六名でした。



空知支部報
第299号
立教189年10月7日
発行
天理教空知支部
美唄市字美唄
1194番地7
発行責任者
高橋洋治
編集責任者
伊藤久司



ちよつと一言

布教部 上村英昭

先日全教一斉にをいがけデーも無事終わり、家族で夕食を食べていたら支部報編集担当者から携帯に電話が、かかってきて「先生、にをいがけデーについて原稿をお願い出来ませんか」との事でした。びっくりして何を書いたら良いのか暫し思案を巡らせまして、思いのなすままに書く事としました。

にをいがけを行動に移すとは、信仰を実践することであり、行動に勇気のいる事であります。私も教祖百四十年祭三年千日の心定めとして、毎月のおちば帰参と千回の「元の理」の路傍講演を心定めをしました。今でも忘れないのですが諭達が發布されて翌年の春季大祭に、「さあ、これから三年間毎月参拝するぞ」とはりきった矢先に市民健康診断で大腸に癌が見つかり、翌月に手術となり参拝が出来なくなりそうになりましたが、幸いにも初期の癌で済み、二月二十三日に退院して二十

五日夕方何とかおちばに着き足早で教祖殿に参拝に駆けつけました。最初からこの様な調子ですから、それでも何とか毎月おちばには帰参でき今でも続いているのが不思議でなりません。「元の理 千回」の路傍講演はカレンダーに星取表みたいに、路傍講演をしたら〇みたいにつけ、こちらも千回を昨年に完遂して現在も毎日赤平市内の神社の前でしています。今は朝づとめ後に十二下りてをどり学びをスマホのチューブのお世話になり、させて頂いています。自分でも不思議なくらい、路傍講演か十二下りてをどり学びをしないと一日何か心が落ち着かないのです。教会が信者さんの高齢化と出直して参拝者が途切れていく中、つくづくと今までが先人の徳で成り立たせて頂いた事にしみじみと気づかせて頂いた。また自らの因縁等と思いが合わせると、不思議にも心がいさむのです。教

祖伝逸話篇で一七一宝の山 教祖のお話に『・・・宝の山がある。山の頂上に上れば、結構なものを頂けるが途中でけわしい所があると、そこからかえるから、宝が頂けないのやで。』と、お聞かせ下された。」とあります。この言葉は信仰が見え無くなると遂々と落ち込みやすくなるものではないでしょうか。私は「元の理」を路傍講演している時必ず教祖から聞かせて頂いた「水を飲めば水の味がする」と伝えていきます。親神様の御恩が、自分が感じないと、人には伝えられませんよね。冒頭に行動するには勇気が必要だと書きました、それが信じる心の強さの現われではないかとふと考えてますが、如何なものでしょうか。